２０１９年度　理事長所信（案）

理事長　藏元　国明

２０１９年度スローガン

「率先垂範」

～自己の行動が　未来を創る～

＜はじめに＞

「他人に変わって欲しければ、自ら率先して変化の原動力となるべきだ」インド独立の父ガンジーの言葉である。ＪＣ（青年会議所）は、市民意識の変革を促す団体であり、Ｊａｙｃｅｅ（青年会議所会員）は「未知の可能性」を切り開く変革の能動者でなくてはならない。

皆思い出してほしい。入会をした当初の高い志を。日々の忙しさと時間に追われる事で忘れてしまい、気概を持って「やっていた」事がいつしか「やらされている」という意識にはなっていないだろうか。何事にも「やらされている」という思いで取り組むよりも、「やっている」という積極的な姿勢で取り組むことができなければ、様々な機会があるＪＣにおいて、また社会においてもその機会をつかみ取ることはできない。

まずは、自らの意識変革をし、「やっている」の意識のもと率先して行動しようではないか。その一歩が、我々の住み暮らす地域の発展と未来の新たな礎になると信じて。

＜機動的組織への進化＞

霧島ＪＣは、３１年間に亘り「明るい豊かな社会」の創造を目指し、時代の変化に合わせた厳正かつ円滑な組織運営のもと、常に地域と向き合い課題解決に向けた事業を展開し、社会に貢献して参りました。市民運動の先頭に立って進む団体として、時代の急速な流れと多様性に対応し、社会の負託に答え得る組織であり続けるには、今まで積み重ねてきた組織運営をさらに進化させていく必要があります。

まずは、霧島ＪＣの最高意思決定機関である総会では、法令、定款、諸規定に準拠した適正かつ円滑な方法で運営していくことが重要です。そして、理事会を会員に見てもらうしくみを作り、会議運営の意義を伝えることや、会員の相互尊重を考えた委員会運営をおこなうことで、組織運営と役割徹底の重要性を意識付けます。また、法人格の見直しを含め、実態に即した定款、諸規定の変更を検討し、時代に合った組織運営の構築を行う中で会員に規則の大事さを伝える機会にもなります。さらに、個が集まり集団となり、その力を十分に発揮することが出来る組織となります。組織に属する一人ひとりが同じ指標と目的を持ち、率先して活動し団結することによってその影響力は増幅していきます。我々が持ちうる力を最大限に発揮し、より強いインパクトを地域社会へ発信していくためにも、我々は規則を重んじた行動を示していく必要があるのです。自ら襟を正し、組織運営の規範となるような行動を誰もが取ることで、他者を慮る心が醸成され、地域唯一の存在として我々の団体が昇華します。そして、本会の目的と指標を共有し、効果的な運営のもと個人の活動意識が高まり、その時々の状況に応じて速やかに運用ができるようになることで青年会議所をより質が高くつながりのある機動的に行動できる組織へと進化すると確信します。

＜地域の発展に貢献できるひとづくり＞

近年、日本は少子超高齢化に伴い人口減少が進み、社会構造の変化に対応していかなければ、自ずと地域は疲弊の一途を辿る現状にあります。この現状を打開するには、これからの社会を担う我々青年経済人が自分の社業の成果を残しながら、地域においても他者に良い影響を与えられる存在でなくてはなりません。そのため我々青年経済人は、自らが率先して行動し、地域や企業を牽引できる魅力あるリーダーになる必要があります。

ＪＣには、様々な機会があり、その機会を通じて修練を積み重ね、修練による自己成長は新たな価値観を創出します。そして、学び得た知識と知恵を社業に還元すれば企業の発展に繋がり、企業の発展は地域社会発展へと繋がります。また、自己成長し続けることは周りに様々な好循環をもたらし、私たちの自己成長こそが「明るい豊かな社会」への一歩となるのです。

地域を変えるべく大きな力を得るには会員一人ひとりの能力を向上させ、自己研鑽の機会を多く創出することで地域や企業を牽引できる魅力あるリーダーとなり、地域の発展に貢献できる人財となると確信します。

＜広報戦略からの運動発信＞

これまで私たちは、「明るい豊かな社会」を創造し様々な事業を実施してまいりました。しかし、会員に対して実施される事業への想いや目的の共有が図り切れていないことから自信を持って広報活動できていません。また、市民に対してＪＣに対する認知度もあまり向上していないばかりか、告知不足から事業の目的が伝わっていないのが現状です。ＪＣの活動・運動を対内外に周知するには戦略のもと効果的な広報が必要です

まずは、会員間の情報共有を図れるツール整備し、事業に参加するだけではなく、事業目的の理解のもと、事前の広報から率先して携われる環境を構築することが重要です。そして、私たちの運動をより多くの方々に知っていただくために、あらゆるコミュニケーションツールを駆使し、私たちの運動をより広く発信できる方法や拡散する戦略を考えていかなくてはいけません。その上で、ＪＣが、どのような目的を持ち活動・運動を行っている団体であるかを発信することでＪＣへの理解が深まり、活動・運動への参加・参画に繋がります。

広報戦略をもとに効果的な運動発信を実施することで地域への共感の輪を拡げ、市民意識の変化による社会参画を促し会員の拡大にも繋がると確信します。

＜全会員での会員拡大＞

現在、各地の会員会議所に限らず各青年団体やまちづくり団体の会員が減少傾向にある中で、霧島ＪＣにおいてもこのまま新たな会員を迎え入れなければ、数年のうちに会員数が半減し、運動の発信力低下や事業の縮小などの問題が懸念される状況にあります。そして、近年会員拡大の重要性について認識しながらも、会員減少に歯止めがかからないこの状況を組織としての喫緊課題として捉えなければなりません。

会員の拡大は、担当委員会だけで成し遂げられる問題ではありません。まずは、会員一人ひとりがＪＣ運動に対しての深い理解と拡大への意識を高め、会員が団結して取り組むという気概を持つことが重要です。そして、拡大活動の手法は様々ありますが、どんな手法を選択するよりも大切なのは、熱意であり、行動力です。「必ず入会に導く」という強い想いと行動量が無ければ、人の心を動かすことはできません。とにかく実践しなければ何も変わらないのです。会員拡大はメンバー一人ひとりが当事者としての意識を持って率先して取り組み、同志の和を広げることが組織の存続と「明るい豊かな社会」の実現の力強い一歩へと繋がると確信します。

＜率先するまちづくり・ひとづくり＞

現在、人口減少・少子超高齢社会の到来により、地域社会の活力の減退が懸念される中、社会のことがらへの無関心さから社会参画は少なくなり、核家族化や地縁関係の薄れにより社会的なつながりが失われています。我々は、地域の現状から目をそらすことなく積極的に関心を持ち、市民意識の変革を促す団体として、自分たちのまちは自分たちで創るという社会参画意識を醸成させる必要があります。

まちづくりとは、社会や文化、経済や環境など生活の根幹を構成するあらゆる要素を含めた暮らしそのものを豊かにするための活動です。そのため短い期間で完了するものではなく、長い年月をかけ持続的に行われる必要があり、単年度制という制度によって、方針や組織内容を毎年変えながら運動する我々であっても、まちづくり事業においては持続性というまちづくりの本質をしっかりと捉え運動を行う必要があります。また、まちづくりは我々だけが行っているものではありません。当然のことながら、行政や各種まちづくり団体など、我々以外にもまちづくりを行う組織や団体は存在します。それぞれスタイルに違いはあっても、地域の発展という同じ志を持っているはずです。何のしがらみもない若い我々が、率先して他団体との効果的な協働を図り、それぞれの経験やノウハウを持ち寄って力を合わせていくことも必要です。そうすることで、我々が活動する地域におけるまちづくりの機運がさらに高まり、ひいては、まちの持続的な発展に繋がります。また、我々が行うまちづくりには、新たな創造性が必要であり、そこに新しい感性を吹き込むため、自由な発想を持った学生など若い世代を効果的に巻き込んでいくことも必要です。そのために、地域の教育機関とパートナーシップを築き我々が事業で培ってきたノウハウを活かし地域の若者に新しい時代に合わせた、必要な能力を身に着ける場とするとともに、まちづくりの社会実験を通じて学びを得る場を作ります。その活動を通じて彼らが地域住民としての自覚を持ち、主体的にまちづくりに参画する意識を醸成することができ、地域に活力を生み出す大きな力となり持続可能なまちづくりになると確信します

＜おわりに＞

青年会議所は、様々な個性を持ったメンバーが集い、自己を磨くことのできる素晴らしい団体です。しかし、自ら行動を起こさなければ何も変わりません。何もせずに誰かが何かを与えてくれるわけでもありません。自分自身が積極的に参画し、高い志を持って取り組むことで何かを掴み取ることができるのです。霧島青年会議所のメンバーであることに自信と誇りを持って、失敗を恐れずにメンバー全員で心をひとつに力を合わせ、率先して行動し、私たちの愛するこのまちの未来のために挑戦していきましょう。

基本方針

機動的組織への進化

地域の発展に貢献できるひとづくり

全会員での会員拡大

広報戦略からの運動発信

率先するまちづくり・ひとづくり

多くの機会を提供できる組織運営

＜第1回次年度正副理事長会議＞

意見1：スローガンの「率先垂範」の意味を教えてください。

対応1：人の先頭に立って物事を行い、模範を示すこと。

＜はじめに＞

意見２：全体的に文章（一文）が長いので、区切った方が読みやすいのではないか。

対応２：文章を区切り修正いたしました。

意見３：背景にある「国民の社会参画が少なくなり」とはどういう意味か。

対応３：社会に対してあまり関心がなく、主体的立場ではなく受動的になっている。

意見４：社会参画が少なくなったことと社会的つながりが薄れたことを深堀してみてはどうか。

意見４：背景に関しては各セクションに修正して記載しました。

＜会員一人ひとりの資質向上＞

意見５：3行目の接続詞がおかしいので修正してください。

対応５：修正しました。

意見６：3行目後半から5行目にかけての文章の繋がりがおかしいようなので修正してください。

対応６修正いたしました。

意見７：会員一人ひとりの資質向上と機動的組織への進化は、まとめて文章を構成した方が良いのではないか。

対応７：まとめて文章を構成しました。

＜全会員での会員拡大＞

意見８： 接続詞がおかしいところが数カ所あるようなので修正をお願いします。

対応８：修正いたしました。

意見９：全体的にオブラートに包みすぎていて読み取りづらいので、思っていることを率直に書いた方が良いのではないか。

対応：自分自身が思うところを書かせていただきました。

＜第1回次年度理事会＞

意見：１「はじめに」の最後に「「未来ビジョン」を念頭に少しでも近づけるような活動をしてまいります」とありますが、せっかくですので少しでもではなく、それに沿っていくということを言っていただけたらなお良いのではないかと思います。

対応：１背景を全面的に修正いたしました。

意見：２前半に2つの問題提起があり、最後のところでそのためにこういう風にしてくという形で書かれています。未来ビジョンに沿ってという所は分かりやすくてよいのですが、「激動する時代の変化を捉え危機感を持って行動する」という箇所の必要性が分かりづらいので、もう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。スピードが速い、多様性を持っているということしか書かれていないので、もう少し深く書いていただければよいのではないかと思います。

対応：２背景を全面的に修正いたしました。

意見：３田上副理事長が言われた点を自分なりにもう少しいうと、率先垂範とはただ崎に動けばいいのではなく、模範となるという意味が含まれていると思います。私が今の時代で思うのが、情報が簡単に取れるからそれに流されてしまいやすいというのがあると思いますので、ＪＣとして本当に正しい情報を掴み行動していく、誰よりも先にそのような情報を捉えて模範となる行動をしていくということがここで表現できれば、藏元次年度がこのスローガンで表現したいことを表現できるのではないかと思います。

対応：３背景を全面的に修正いたしました。

意見：４率先垂範という素晴らしいスローガンがあるので、そこがゴールに見えてこなければならないと思います。

対応：４背景を全面的に修正いたしました。

意見：５「はじめに」は、しっかりと伝えたいことを伝えないと弱いかなと思います。ここで触れてほしいのは会員の意識をどうやって上げていくか。誰に訴えかけているのかを明確にして書いた方が良いと思います。

対応：５背景を全面的に修正いたしました。

意見：６資質向上から機動的組織への進化という表現について、資質向上から機動的組織への進化という意味がよく分からないです。

対応：６わかりにくいので、分けて記載いたしました。

意見：７会員一人ひとりの資質向上を図ることで会員にどうなってほしいのかを教えていただけたらと思います。

対応：７地域や企業を牽引できる魅力あるリーダーと書き加えました。

意見：８地域経済を担う経済人というところと会員の資質向上というところが2つあって、どちらをどうすればよいかが明確ではないと思います。

対応：８地域経済を担う経済人に絞り記載いたしました。

意見：９総務が何をやるのかが分かりにくいので、書き方をもう少し分かりやすく書いていただけたらありがたいです。

対応：９最高意思決定機関である総会では、法令、定款、諸規定に準拠した適正かつ円滑な方法で運営していくことが重要です。と追記致しました。

意見：１０機動的に行動できる組織へと進化の内容が背景に出てこず、なぜ進化しなければならないかを記載してください。

対応：１０背景に記載いたしました。

意見：１１文章の下の部分は戦略的な広報で対応できる部分ではあると思うのですが、上の部分は広報のせいだけではないというか、ここを広報に結び付けてしまうのは少し強引なのではないかと思います。

対応：１１広報の担いになるような内容で記載修正いたしました。

意見：１２戦略的な広報発信から拡大へは、委員会に対して一つのセクションにしていると思うのだけれど、ここはたぶん2つくらいにした方がよいと思います。戦略的な広報と発信から拡大ではないけれど、2つのセクションに分けて文章を構成した方が分かりやすいと思います。

対応：１２文章を２つに分けて記載し修正いたしました。

意見：１３各種団体と連携したまちづくり・ひとづくりの背景部分にある問題提起の内容が、どこにかかっているかわかりにくいです。

対応：１３背景中の現状と問題提起がリンクするように修正いたしました。

意見：１４青少年事業の年齢対象は何歳くらいを考えているか。

対応：１４中高生以上を対象に考えています。

意見：１５全体的に手法が先行した内容になっているので、何故しないといけないのか、何故必要なのかを書いていただければと思います。

対応：１５

意見：１６理事長が想う街像、どういう街にしたいというゴールが見えていないです。スローガンの内容も含め記載頂ければと思います。

対応：１６

意見：１７おわりにの部分は、個人の想いを書くのではなくやはり組織のトップなので組織のことを考えて文章を書いてほしい。

対応：１７意見を踏まえ、全体的に修正いたしました。